

2 事業シート

めざすまちの姿 安心・安全きれいなまち 施策 地域防災力の向上

1. 令和5年度事業内容等

No.	1	事業名	「地区防災カルテ」を活用した防災活動の推進 ①地域特性に応じた防災活動を洗い出すための支援	区分	継続
担当課	総務課	関係部署（所）	消防署ほか		
趣 旨	学区ごとに「地区防災カルテ※」を活用した話し合いを行う中で、次に取り組むべき防災活動を洗い出し、地域特性に応じた防災活動を進めることで、地域防災力を向上させる。				
事業予定	学区ごとに住民の防災意識の醸成を図り、主体的な活動への意欲を図る。 1 地域特性及び防災活動状況の把握 <u>感染対策</u> 新たなハザードマップ等を活用して学区における地域の災害リスク等を把握し、地域特性について広く認識することができるよう住民に周知するためのチラシ作成等による支援を行う。 2 地域特性に応じた防災活動の検討 <u>感染対策</u> コロナ禍を踏まえた防災活動として具体的な活動事例を示す等、学区がより主体的に次に取り組むべき防災活動を検討することができるよう支援する。				
計画目標	地域特性に応じた防災活動の検討 全学区				

※地区防災カルテ

大規模災害に備え、よりきめ細やかな地域の防災活動を推進・支援していくため、地域の地形、歴史、災害リスク、防災活動状況など、防災に関する情報を学区ごとにまとめたもの。

2. 令和4年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	「地区防災カルテ」を活用した話し合いを行い、地域特性に応じた防災活動を洗い出すための支援の実施 全学区
実施内容	1 地域特性及び防災活動状況の把握 <u>感染対策</u> 「地区防災カルテ」を新たなハザードマップの内容に更新し、全学区において学区の特性に応じた防災活動の実施などについて話し合いを行った。 2 地域特性に応じた防災活動の洗い出し <u>感染対策</u> コロナ禍でも実施できる防災活動など具体的な活動事例を示し、全学区において地域の実情に応じた防災活動を検討した。
実績	「地区防災カルテ」を活用した話し合いを行い、地域特性に応じた防災活動を洗い出すための支援の実施 全学区
総括	地区防災カルテやハザードマップマップ等を活用した話し合いにより、地域特性への理解を深められた。 今後は地域特性を住民にも理解していただき、自らの命を守るための防災活動を幅広く検討していただけるよう、学区への情報提供や助言等による寄り添った支援が必要である。

1. 令和5年度事業内容等

No.	2	事業名	「地区防災カルテ」を活用した防災活動の推進 ②地域特性に応じた防災活動の実施	区分	継続
担当課	総務課	関係部署（所）	消防署ほか		
趣 旨	学区ごとに「地区防災カルテ」を活用した話し合いを行う中で、次に取り組むべき防災活動を洗い出し、地域特性に応じた防災活動を進めることで、地域防災力を向上させる。				
事業予定	学区の特性等を踏まえ、発災時に住民が自らの命を守る行動ができるよう、地域における防災活動の企画、運営を支援していく。 ・地域特性に応じた防災活動の実施 <u>感染対策</u> 関係部署と連携して支援を行うことにより、学区における地域の災害リスクなどを踏まえた課題に対応する防災活動の実施を促進する。				
計画目標	地域特性に応じた防災活動の実施 各学区1回				

2. 令和4年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	地域特性に応じた防災活動の実施 各学区1回
実施内容	・地域特性に応じた防災活動の実施 <u>感染対策</u> 「地区防災カルテ」を活用した話し合いを行う中で洗い出された課題に対応する防災活動を実施した。
実績	地域特性に応じた防災活動の実施 各学区1回以上
総括	全学区で避難所に応じて新たに配備された災害用無線 LAN などの資機材の設置訓練などに加え、各学区で自主防災訓練等の実施により地域で必要な防災活動が実施された。 今後は、地域特性を反映し、発災時を視野に入れた具体的な防災活動が推進されるよう、学区に寄り添った支援を継続していく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	3	事業名	「地区防災カルテ」を活用した防災活動の推進 ③講演会の実施を通じた地域防災活動の支援	区分	継続
担当課	総務課	関係部署（所）	—		
趣 旨	講演会を通じて、防災について考えるきっかけや学ぶ機会を提供していくことで地域特性に応じた防災活動の充実・活性化を図り、地域防災力を向上させる。				
事業予定	発災時に一人も命を失わないために、住民が必要な知識を習得できるようにし、各自が防災について意識できるようにする。 ・ 防災講演会の実施 <u>感染対策</u> 地域の防災力向上に不可欠な要素である、自分の命は自分で守る「自助」や地域で助け合う「共助」について、住民の知識を深め、意識を高めるために、防災講演会を実施する。				
計画目標	防災講演会の実施 1回				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	防災講演会の実施 1回
実施内容	・ 防災講演会の実施 <u>感染対策</u> 中川区地域女性活動促進事業実行委員会と連携して、女性視点での防災活動をテーマにした講演会を開催した。（11月16日）
実績	防災講演会の実施 1回
総括	避難所等で女性が活躍した事例を学び、避難所運営等にあたって女性視点からどのような活動が必要かを考えるきっかけをつくることができた。 今後は、発災時に自分の命を守るために必要な知識等を学ぶことができるよう、支援の対象者に合わせた形で、関係課や関係機関と連携した講演等を企画していく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	4	事業名	「地域防災マネジメント事業」の推進に係る 消防署との連携	区分	継続
担当課		総務課	関係部署（所）	消防署	
趣 旨		消防署と連携し、「家庭及び地域の防災力」を詳細に捉えて、災害時に命を守る「自助」の取り組みを推進するとともに、町内会レベルで結成される「個々の自主防災組織」の活動活性化に向けた働きかけを実施する。			
事業予定		地域ごとの特性の違いや、住民の世帯状況による防災意識の違いを把握し、自助・共助等の啓発をすすめる機会とする。 1 戸別訪問の機会を活用した意識啓発 感染対策 消防署が実施する戸別訪問と連携して、各家庭の訪問時に家具転倒防止対策の実施状況の聞き取り調査や防災対策についての啓発を実施し、家庭内における「命を守る」ための取り組みを働きかけていく。 2 自主防災組織への活動支援 感染対策 個々の自主防災組織が実施する防災活動に対して、消防署と連携しながら自助・共助につながる活動支援を行う。			
計画目標		「戸別訪問」の実施 7学区（約28,500世帯）			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	「戸別訪問」の実施 約24,000世帯（6学区）
実施内容	1 戸別訪問による防災用品を活用した意識啓発 感染対策 消防署の戸別訪問と連携して、各家庭の訪問時に家具転倒防止対策の実施状況等の聞き取りやリーフレットの配布等により防災対策についての啓発を実施した。 （戸別訪問実施学区：昭和橋、中島、明正、西中島、八幡、戸田） 2 個々の自主防災組織への支援 感染対策 地域に密着した個々の自主防災組織に対する活動支援を、消防署と連携して各家庭での備えや避難所の運営などについての訓練や講習を実施した。
実績	「戸別訪問」の実施 約25,900世帯（6学区） （令和4年度までに24学区中10学区で実施済み）
総括	戸別訪問は、各家庭と直接向き合い、住民に対して防災の取り組みを推進できる貴重な機会として有効であった。 今後は、住民の防災に対する意識や課題を吸い上げる機会としても捉える等、消防署等の関係機関と連携して、地域課題等の把握と課題解決に取り組んでいく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	5	事業名	災害対応体制の強化	区分	継続
担当課		総務課	関係部署（所）	消防署ほか	
趣 旨		名古屋市災害対策本部の「区本部」として、市本部はもとより各関係機関と連携して、迅速かつ強力な災害対応にあたるために体制の強化を図る。			
事業予定		各種訓練を通じ、自助・共助の意識を地域に根付かせるとともに、関係機関との連携による公助の体制構築と住民への周知を図り安心感を与える。 1 発災時初動シミュレーション訓練の実施 <u>感染対策</u> 区役所の災害対応力の向上を図るため、発災当初必要となる対応について、区職員を対象とした訓練及び行動内容や必要物品等の検討を実施する。 2 関係機関との連携訓練の実施 <u>感染対策</u> 5月に総合水防訓練、9月には重点区として総合防災訓練を実施し、市本部、災害救助地区本部（学区）及び関係機関と連携しながら、参加住民の自助・共助につながる行動を中心とした住民参加型訓練を実施する。 区医師会等と災害時医療救護所開設・運営訓練、区社会福祉協議会及び名古屋なかがわ災害ボランティアネットワークと災害ボランティアセンター開設・運営訓練、中川警察署等と遺体安置所開設・運営訓練を各機関との協働により実施する。			
計画目標		発災時初動シミュレーション訓練、総合水防訓練、総合防災訓練、災害時医療救護所開設・運営訓練、災害ボランティアセンター開設・運営訓練、遺体安置所開設・運営訓練 各1回			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	発災時初動シミュレーション訓練、総合水防訓練、総合防災訓練、災害時医療救護所開設・運営訓練及び災害ボランティアセンター開設・運営訓練の実施 各1回
実施内容	1 災時初動シミュレーション訓練の実施 <u>感染対策</u> 発災直後の初動期に、区職員の的確かつ迅速な初動対応を図るための訓練を実施。（2月28日） 2 関係機関との連携訓練の実施 <u>感染対策</u> 新型コロナのため、災害時医療救護所開設・運営訓練は中止。 総合水防訓練は5月29日に西中島小学校、総合防災訓練は9月4日に千音寺小学校でそれぞれ実施。 区社会福祉協議会及び名古屋なかがわ災害ボランティアネットワークとの協働により災害ボランティアセンター開設・運営訓練を実施。（12月11日）
実績	発災時初動シミュレーション訓練の実施 1回 総合水防訓練、総合防災訓練の実施 各1回 災害ボランティアセンター開設・運営訓練の実施 1回
総括	総合水防訓練及び総合防災訓練は、コロナ禍の中、3年振りに感染症対策を講じた上で住民参加型訓練を実施することができた。 今後は、住民が発災時を意識し、自助や共助につながる行動を中心とした住民参加型訓練を、関係機関との連携を強化する中で、内容や実施方法を充実していく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

【区の特性に応じたまちづくり事業】

No.	6	事業名	災害に強い「ひと・まちづくり」事業	区分	新規
担当課	総務課		関係部署（所）	—	
趣 旨	小中学生を含む地域住民を対象として、地域における防災人材の継続的な育成を図り、地域防災力を向上させる。				
事業予定	地域における防災意識の向上や防災人材の育成を図るため、小中学生を含む地域住民を対象とした避難所開設キットを活用した訓練を実施するなど、人材育成手法の検証を行う。 1 避難所開設キットの製作 防災意識の向上を図るため、小中学生や避難所開設の経験がない地域住民にも活用しやすい避難所開設キットを製作する。 2 避難所開設キットを活用した訓練 小中学生を含む地域住民を対象として、避難所開設キットを活用した訓練を実施し、訓練実施後に参加者の防災意識の変化などを確認し、効果検証を行う。				
計画目標	避難所開設キットの製作、活用訓練の実施				

1. 令和5年度事業内容等

No.	7	事業名	セーブ・ザ・なかがわっ子プロジェクト ～子どもを守るつながりづくり～ 子どものいのちを守る子育て防災対策事業	区分	継続
担当課		民生子ども課	関係部署（所）	総務課	
趣 旨		南海トラフ地震や風水害等の大規模災害から子どものいのちを守るために、愛知県立大学と協働して保育園をモデルとした防災対策を策定・検証し、在宅の子育て家庭に対してセミナー等を開催する。			
事業予定		愛知県立大学との協働により作成した防災対策冊子、ビデオを活用し、災害弱者対策を中心とした住民の命を守る事業等への支援を行う。 愛知県立大学と連携し、下記の活動を実施する。 - 子育て家庭防災セミナーの実施 感染対策 地域子育て支援拠点と連携し、講座として「子育て家庭防災セミナー」を実施し、在宅における子育て家庭の防災について学ぶ機会を提供する。 - 子育て家庭が集まるイベントに防災ブースを設置 感染対策 子育て家庭が集まるイベントに子育て防災のブースを作り、「中川区子育て家庭の防災 BOOK」の配布やミニ講座など子育て家庭等災害弱者向けの在宅での防災の周知に努める。 - 施設向け防災対策の支援 保育所等の福祉施設における防災対策構築にかかる支援			
計画目標		子育て家庭向け防災セミナー及びイベント参加による周知の機会 2回以上			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	子育て家庭向け研修の実施 1回以上
実施内容	愛知県立大学と連携し各種研修を実施 - 子育て家庭向け防災研修 「中川区子育て家庭の防災 BOOK」を活用し、保育園を通じて子育て家庭向け防災の啓発を行った。 - 施設向け防災対策研修の実施 防災対策研修ビデオを活用した保育園等の施設における防災対策研修を実施した。
実績	子育て家庭向け研修の実施 1回以上
総括	子育て家庭向け防災研修や保育園向け防災研修を実施し、策定した防災対策を冊子等により子育て家庭に伝えることができた。 今後は、災害弱者向け防災対策について、住民向け周知や施設への支援を広げていき、自助・共助の推進を図っていく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	8	事業名	防災協力農地の登録・周知の推進	区分	継続
担当課		中川農政課	関係部署（所）	—	
趣 旨	大規模地震が発生した際に、一時的避難空間や災害復旧用資材置場、火災延焼を防ぐオープンスペースとして活用できる防災協力農地の登録と周知を推進する。				
事業予定	・ 受付窓口及び郵便物発送時の案内 - 農家への郵送物を送る際や、生産緑地の追加指定、特定生産緑地への移行申請の際など、農地所有者に窓口で制度説明を行い、登録の協力を要請する。				
計画目標	防災協力農地の年度末登録数 50 か所以上				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	防災協力農地の年度末登録数 50 か所以上
実施内容	・ 受付窓口及び郵便物発送時の案内 - 農家へ郵送物を送る際や、生産緑地の追加指定、特定生産緑地への移行申請の際など、農地所有者に窓口で制度説明を行い、登録の協力を要請した。
実績	防災協力農地の年度末登録数 42 か所
総括	市街化区域内の農地は毎年減少し、それに伴い生産緑地の追加指定も近年減少している。今後は、協力農地（特に事業効果の高い「駅そば」の農地）を増やすことが難しくなると想定されるが、事あるごとに粘り強く呼びかけていく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	9	事業名	防犯対策の推進	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	警察署	
趣 旨		啓発キャンペーンや犯罪発生状況に応じた啓発活動等を通じて、区内における防犯意識を高め、地域における生活安全活動の盛り上げを図ることで犯罪の抑止につなげる。			
事業予定		1 啓発キャンペーンの実施 <u>感染対策</u> （1）広報活動・啓発キャンペーンの実施 生活安全市民運動期間（年4回）を中心に、警察署と連携して効果的な啓発キャンペーンを実施する。 （2）高校生と協働した啓発活動 高校生による区内商業施設でのキャンペーンの実施、犯罪別啓発用音声作成により、地域の防犯意識の向上につなげる。 （3）自転車ツーロック啓発動画を使用した啓発 自転車盗難多発地域において啓発動画を配布し、盗難の抑制につなげる。 2 犯罪状況に応じた啓発活動の実施 （1）犯罪予測AI※の活用 犯罪予測AI アプリを活用したパトロールと実態調査を行う。 （2）犯罪注意マップの作成 警察署と連携し、住宅対象侵入盗、自動車関連窃盗の発生状況を各地域の地図に記載した「犯罪注意マップ」を年4回作成し、各学区に配布するほか、区公式ウェブサイト公開する。			
計画目標		区内3高校等との協働による啓発キャンペーンの実施 3回			

※犯罪予測AI

名古屋市が犯罪抑止の取り組み支援のため活用しているAI（人工知能）による犯罪予測を用いた防犯パトロール支援アプリのこと。

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	区内3高校等との協働による啓発キャンペーンの実施 3回
実施内容	1 啓発キャンペーンの実施 <u>感染対策</u> （1）広報活動・啓発キャンペーンの実施 警察署と連携してキャンペーンとパトロールを計17回実施した。 （2）高校生と協働した啓発活動 区内3校の高校生と協働し商業施設でのキャンペーンを3回実施。また、3校の高校生による犯罪別啓発用音声を作成し、パトロールに活用した。 （3）自転車ツーロック啓発動画を使用した啓発 区内小中特別支援学校36校へ啓発動画を配布した。 2 犯罪状況に応じた啓発活動の実施 （1）犯罪予測AIの活用 毎週水曜日に犯罪予測AI アプリを活用したパトロールを実施した。 （2）犯罪注意マップの作成 【新規】 警察署と連携し、学区単位の「犯罪注意マップ」を年4回作成し、各学区に配布するとともに、区公式ウェブサイトにおいて公開した。
実績	区内3高校等との協働による啓発キャンペーンの実施 3回
総括	高校生との協働は啓発活動を行う高校生自身の防犯意識向上にも取り組むことができた。また、啓発活動を行う場所や集まる人の年齢層に応じた啓発を行った。さらに傾向を分析し、啓発する対象や罪種を絞って啓発する必要もある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	10	事業名	地域における自転車パトロールの推進	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	警察署	
趣 旨		自転車による自主的及び日常的な防犯パトロール活動の推進を通じて、区内における防犯意識を高め、地域における生活安全活動の盛り上げを図ることで犯罪の抑止につなげる。			
事業予定		1 自転車パトロール隊の結成 <u>感染対策</u> 住宅対象侵入盗などの主要犯罪が多発している学区を対象に、自転車パトロール隊を結成し、自主的及び日常的な防犯パトロールを推進する。 2 結成学区における警察署による講話の開催 結成学区において住宅対象侵入盗件数が前年総件数より増加した場合には、自転車パトロール隊を対象とした講話を警察署と連携して行う。 3 自転車パトロール隊への活動支援 【新規】 これまでに結成した自転車パトロール隊に対して、警察署と連携して住宅対象侵入盗などの主要犯罪の発生状況や手口などを、資料やチラシ、さらには「犯罪注意マップ」などによって情報提供を行うとともに、防犯パトロールなどの活動を支援する。			
計画目標		・ 自転車パトロール隊新規隊員数 50 名 ・ 結成学区における住宅対象侵入盗年間件数 前年比減少			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	・ 自転車パトロール隊新規隊員数 50 名 ・ 結成学区における住宅対象侵入盗年間件数 前年比減少
実施内容	1 自転車パトロール隊の結成 <u>感染対策</u> 住宅対象侵入盗の被害が増加している長須賀学区において、自転車パトロール隊を結成し、地域による自主的及び日常的な防犯パトロールを推進した。また、自転車パトロール隊の結成に合わせ、隊員から補助錠を地域住民へ配布し、住宅対象侵入盗の被害抑止を図った。 2 結成学区における警察署による講話の開催 長須賀学区において自転車パトロール隊を対象とした講話を警察署と連携して行った。
実績	・ 自転車パトロール隊新規隊員数 30 名 ・ 結成学区における住宅対象侵入盗年間件数 前年比減少 (過去2年間に結成した2学区の住宅対象侵入盗年間件数 4件→0件)
総括	住宅対象侵入盗が多発している学区で結成した自転車パトロール隊の出発式を実施する際に、スポーツ市民局の啓発事業も併せて実施し、地域での防犯パトロールを後押しすることができた。これまで自転車パトロール隊を結成した学区に対して、自転車パトロール隊を活かした防犯活動に対して継続的に支援する必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

【区の特性に応じたまちづくり事業】

No.	11	事業名	地域が行う防犯活動に対する重点的支援	区分	新規
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	警察署	
趣 旨		地域が行う防犯活動において、効果的な啓発やパトロールなどを行えるよう、区役所や関係機関が支援することにより、活動の活性化を図り、さらなる地域の防犯意識向上を目指す。			
事業予定		1 重点学区に対する防犯活動支援 前年度の刑法犯発生件数が多い6学区を重点学区として、「犯罪注意マップ」を活用し、それぞれの傾向に応じた罪種に対する啓発品の配布やチラシの作成により、効果的な啓発が行えるよう支援する。 2 重点学区における防犯活動の活性化 重点学区において実施している防犯パトロールを始めとした防犯活動に対して、活動資材の配布や活動の広報などによって、防犯意識の高い地域であることを学区内外へPRするとともに、活動の活性化を支援する。 3 関係機関と連携した防犯活動の支援 重点学区における防犯活動に関して、警察署、防犯協会連合会を始めとした関係機関・団体と学区が連携して防犯活動が行えるよう、情報共有や協力調整などの支援をする。			
計画目標		重点学区における刑法犯発生件数 前年比減少			

1. 令和5年度事業内容等

No.	12	事業名	交通安全対策の推進	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	警察署	
趣 旨		啓発キャンペーンや交通安全教室の実施、交通事故発生状況に応じた啓発活動等を通じて、区内における交通安全意識を高め、交通事故の抑止につなげる。			
事業予定		1 啓発キャンペーン等の実施 <u>感染対策</u> （1）啓発キャンペーン等の実施 交通安全市民運動期間（年 4 回）を中心に、交通事故抑止キャンペーンを地域・警察署と連携し実施する。 （2）園児及び小学生対象の交通安全教室や高齢者向け交通安全講話の実施 これまでの交通安全教室の内容に加えて、運送業者等と協働し「トラック」に対する交通安全対策についても学ぶことで、交通事故抑止につなげる。また、様々な広報とメディアの活用により、多くの人への啓発を行う。 （3）中川区マスコットキャラクター「ナッピー」を活用したイラスト付きの反射材の配布 家庭内から交通安全意識の向上を図るため、小学校入学児童に配布する。 2 交通事故発生状況に応じた啓発活動の実施 <u>感染対策</u> 交通事故件数が多い学区を「交通安全強化学区」として選定し、学区住民や警察署と連携した啓発活動を実施する。			
計画目標		- 交通安全教室の実施 区内全学区（53 回以上） - 交通安全強化学区における啓発活動の実施 2 回			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	- 交通安全教室の実施 区内全学区（51 回以上） - 交通安全強化学区における啓発活動の実施 2 回
実施内容	1 啓発キャンペーン等の実施 <u>感染対策</u> （1）啓発キャンペーン等の実施 交通事故抑止キャンペーンを地域・警察署と連携し 45 回実施した。 （2）保育園児及び小学生を対象とした交通安全教室や高齢者向け交通安全講話の実施 交通ルール動画を制作し、7 回の交通安全教室で活用した。ふれあい給食会等で警察署を招き高齢者向け交通安全講話を実施した。 広報なごやを活用した啓発を行った。 （3）中川区マスコットキャラクター「ナッピー」を活用したイラスト付きの反射材の配布 子どもたちの交通安全意識向上を図るため、小学校入学児童に配布した。 2 交通事故発生状況に応じた啓発活動の実施 <u>感染対策</u> 「交通安全強化学区」として昭和橋学区を選定し、学区住民や警察署と連携した啓発活動を 9 月と 12 月に実施した。
実績	- 交通安全教室の実施 区内全学区（53 回） - 交通安全強化学区における啓発活動の実施 2 回
総括	実際の事故現場での啓発活動の実施によって、地域の交通安全意識の高揚を図ったことにより、地域での継続的かつ自主的な啓発活動につなげることができた。より多くの人へ啓発するためにも、新聞等のメディアの目に留まるような啓発活動の企画とメディアを活用してより多くの人に向けて広報を行う必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	13	事業名	地域の力で子どもを守る交通安全見守り事業	区分	継続
担当課	地域力推進室	関係部署（所）	警察署		
趣 旨	子ども自身が交通安全宣言を行うことで交通安全意識を高めるとともに、地域住民による見守り活動を推進することで子どもの交通事故の抑止につなげる。				
事業予定	1 小学生による交通安全宣言の実施 <u>感染対策</u> 6 学区において、小学校の代表児童による交通安全宣言を行うとともに、「交通安全見守り出発式」を実施し、児童を見守るため地域住民へ交通安全横断旗を配布する。開催にあたっては、交通安全教室と同日開催することにより、より効果的に児童の交通安全意識の向上を図る。 2 地域住民による見守り活動の推進 学区役員や PTA など地域住民による日常的な小学校の登下校時の見守り活動を推進するため、中川区マスコットキャラクター「ナッピー」を活用した交通安全横断旗を配布する。また、地域住民による見守り活動について広報することにより、児童や保護者にも理解を深めてもらい活動の輪が広がるよう推進する。				
計画目標	地域住民による見守り活動の実施 6 学区				

2. 令和4年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	地域住民による見守り活動の実施 6 学区
実施内容	1 小学生による交通安全宣言の実施 <u>感染対策</u> 八熊学区、常磐学区、篠原学区、正色学区、万場学区及び明正学区の6 学区において、交通安全教室と「交通安全見守り出発式」の同日開催し、小学校の代表児童による交通安全宣言を行うとともに、交通安全旗を見守り活動を行う地域住民へ児童から贈呈することで、見守る側と見守られる側、双方の交通安全意識の高揚を図った。 2 地域住民による見守り活動の実施 出発式等で配布した交通安全横断旗を活用した日常的な見守り活動を、地域住民によって小学校の登下校時に行っていた。
実績	地域住民による見守り活動の実施 6 学区
総括	「交通安全見守り出発式」は子どもたちの交通安全の意識向上のみならず、地域・学校と連携することで見守る側の意識向上につながった。今後、この地域や学校・PTA による見守り活動に対する継続的な支援と、地域の活動を将来へ持続させるために、子どもたちへ伝えていく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	14	事業名	自転車乗車時のヘルメット着用推進	区分	継続
担当課	地域力推進室	関係部署（所）	警察署		
趣 旨	「自転車ヘルメット広め隊」による啓発活動を通じて、自転車乗車時のヘルメット着用に対する意識を高め、自転車の交通死亡事故の抑止につなげる。				
事業予定	1 「自転車ヘルメット広め隊」の委嘱 <u>感染対策</u> 交通安全強化学区指定学区において「自転車ヘルメット広め隊」委嘱及び警察署による交通安全講話を実施し、自転車運転の正しい知識やヘルメット着用について周囲の方々へ日常的に呼びかけてもらう。 2 「自転車ヘルメット広め隊」による啓発キャンペーンの実施 <u>感染対策</u> 警察署と連携して、ヘルメット着用を促進する啓発キャンペーンを、区内の集客施設や自転車利用者が多い交差点、駅付近や、イベント開催の機会などに合わせて実施する。 3 交通安全教室におけるヘルメットの着用啓発 <u>感染対策</u> 保育園児及び小学生を対象とした交通安全教室において、交通指導員からヘルメットの重要性を伝え、着用に対する区民の意識転換を図る。また、学校と連携して中高生への啓発を実施する。				
計画目標	・ 自転車ヘルメット広め隊隊員 180 名（累計） ・ 交通安全教室開催でのヘルメット着用啓発 区内全学区				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	・ 自転車ヘルメット広め隊隊員 140 名（累計） ・ 交通安全教室開催でのヘルメット着用啓発 区内全学区				
実施内容	1 「自転車ヘルメット広め隊」の委嘱 <u>感染対策</u> 9 月に交通安全強化学区に指定した昭和橋学区で隊員の委嘱及び警察署による交通安全講話を実施し、隊員には自転車運転の正しい知識やヘルメット着用について周囲の方々へ日常的に呼びかけてもらった。 2 「自転車ヘルメット広め隊」による啓発キャンペーンの実施 <u>感染対策</u> 12 月に実施するウォーキングイベントにおいて、警察署と連携して、隊員がヘルメット着用を促進する啓発を実施した。 3 交通安全教室におけるヘルメットの着用啓発 <u>感染対策</u> 保育園児及び小学生を対象とした交通安全教室において、交通指導員からヘルメットの重要性を伝え、着用に対する区民の意識転換を図った。また、区民まつり会場においてもチラシとテキストを用いたヘルメット着用啓発を行った。				
実績	・ 自転車ヘルメット広め隊隊員 166 名（累計） ・ 交通安全教室開催でのヘルメット着用啓発 区内全学区				
総括	「自転車ヘルメット広め隊」の活動は、隊員自身のヘルメット着用と、着用促進を地域の中から発信してもらうことで、高齢者を中心にヘルメット着用促進を徐々に進めることができている。一方で中高生を始め若者のヘルメット着用についても取り組む必要がある。				

1. 令和5年度事業内容等

No.	15	事業名	クリーンキャンペーンの実施	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	環境局、環境事業所、土木事務所	
趣 旨		地域住民・ボランティア・事業所との協働のもと「町を美しくする運動」として道路や公園などの清掃活動を実施することで、快適で住みやすい地域づくりにつなげる。			
事業予定		・クリーンキャンペーンの実施 <u>感染対策</u> 全市一斉クリーンキャンペーン（6月3日）にあわせ、学区・ボランティア・事業所・区役所が協議して、地域でゴミが目立つ道路や公園などを選び大規模な清掃活動を実施する。			
計画目標		クリーンキャンペーンの実施 区内全学区			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	・クリーンキャンペーンの実施 区内全学区 ・プロギングツアーの開催（中川区内）
実施内容	1 クリーンキャンペーンの実施 <u>感染対策</u> 全市一斉クリーンキャンペーンの6月4日に、五反田学区を中央会場として、学区・ボランティア・事業所・区役所が協働して清掃活動を実施した。 また、6月4日を中心に全学区においても清掃活動を実施した。 2 プロギング※ツアーの開催（中川区内） <u>感染対策</u> 【新規】 新たな清掃活動の一環として区の魅力の発見・発掘も兼ねたプロギングを、荒子川沿いの地域で開催した。
実績	・クリーンキャンペーンの実施 区内全学区 ・プロギングツアーの開催（中川区内）
総括	地域でクリーンキャンペーンを実施することが定着しており、実施方法は様々だがすべての学区で行われている。今後は、特に中央会場においては複数の学区を対象とした実施や、イベントの要素を盛り込むなど、より多くの人に参加する行事とする必要がある。

※プロギング

ごみ拾い(PlockaUpp)とジョギング(Jogging)を合わせたスウェーデン発のスポーツ。

1. 令和5年度事業内容等

No.	16	事業名	空地・空家等の適切な管理の推進		区分	継続
担当課	地域力推進室		関係部署（所）	中村保健センター、土木事務所、環境事業所、消防署		
趣 旨	管理の不適切な空地・空家及び堆積物により不良な状態にある住居の所有者等に適切な管理を依頼することで、快適で住みやすい地域づくりにつなげる。					
事業予定	1 空地の適切な管理 空地の雑草等に関する申し出には迅速に実態調査・対応を実施し、年2回、解決していない案件について現地確認を実施し、必要に応じて雑草処理勧告書を送付するなど再度適切な管理を依頼する。 2 空家等の適切な管理 <u>感染対策</u> 区空家等対策会議開催により関係部署で情報共有し、管理の不適切な空家等の所有者等に適切な管理を依頼する。4か月ごとに解決していない案件の現地確認を実施し、必要に応じて再度適切な管理について依頼する。 3 堆積物により不良な状態にある住居の適切な管理 <u>感染対策</u> 関係部署で情報を共有するとともに、堆積物により不良な状態にある住居の所有者等に適切な管理を依頼し、堆積者への援護が必要な場合には経済的支援制度の活用及び福祉部門などと連携して事態の根本的な解決を図る。					
計画目標	・区空家等対策会議の開催 4回 ・空地及び空家等解消率 35%以上					

2. 令和4年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	・区空家等対策会議の開催 4回 ・空地及び空家等解消率 35%以上
実施内容	1 空地の適切な管理 <u>感染対策</u> 空地の雑草等に関する申し出に対して迅速に実態調査・対応を実施した。また、年2回、解決していない案件について現地確認を実施し、必要に応じて雑草処理勧告書を送付するなど再度適切な管理を依頼した。 2 空家等の適切な管理 <u>感染対策</u> 区空家等対策会議開催により関係部署で情報共有し、管理の不適切な空家等の所有者等に適切な管理を依頼する。4か月ごとに解決していない案件の現地確認を実施し、必要に応じて再度適切な管理について依頼した。 3 堆積物により不良な状態にある住居の適切な管理 <u>感染対策</u> 住居の不良堆積物にかかる区対策会議を開催し、関係部署で情報を共有するとともに、堆積者への援護が必要な場合には関係機関が連携して事態の根本的な解決を図ることの再確認を図った。
実績	・区空家等対策会議の開催 4回 ・空地及び空家等解消率 30.5%
総括	空家・空地の適切な管理について、多くの案件に対し粘り強く依頼を続け問題の解消につなげることができたものも多い。今後、堆積物により不良な状態にある住居も含め、解消につなげていくためには、各対策会議を通じて関係機関の連携を強化する必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	17	事業名	ペットと暮らす快適なまちづくり運動の推進	区分	継続
担当課		保健センター健康安全課	関係部署（所）	—	
趣 旨		犬猫の飼主等を対象に、飼い方などに関する個別の指導を行うとともに、ペットの災害対策の視点から日頃のしつけの重要性についても啓発していく。 また、看板など啓発資材の作成・配布、巡回パトロールなどの様々な啓発活動を実施して、犬猫とともに暮らす快適なまちをめざす。			
事業予定		1 犬猫の飼主等への指導・助言 感染対策 区民からの苦情等の情報に基づいて、飼主等への指導・助言を実施する。さらに、名古屋市動物愛護推進員と協働し、防災訓練等の機会を通じて、ペットの災害対策の一環として日頃のしつけの重要性を啓発する。防災訓練に参加しなかった人に対しても、区公式ウェブサイトなどを活用しながら情報発信を行う。 2 イベント・巡回パトロール等の啓発活動 感染対策 区民まつりなどイベントの機会や巡回パトロールを行い、区民に対して啓発グッズや資料を配布するなどして、犬のフンの持ち帰りや飼猫の室内飼育の推奨を重点に、啓発を実施する。 3 用具等の貸出、補助券の交付等 区民からの相談に応じて、猫忌避装置の貸出や避妊・去勢手術補助券の交付、マイクロチップ装着の補助券の交付、のら猫対策活動の支援等を実施する。			
計画目標		イベント、巡回パトロール等の啓発活動の実施 15 回			

2. 令和4年度の実施結果

（評価☆☆☆）

計画目標	キャンペーン、巡回パトロール等の啓発活動の実施 15 回
実施内容	1 犬猫の飼主等への指導・助言 個別の苦情・相談への対応として飼主等へ指導・助言を実施した。ペットの災害対策の一環である日頃のしつけの重要性の啓発は、水防訓練、防災訓練、区民まつりで名古屋市動物愛護推進員と協働で実施した。また、区公式ウェブサイトでも水防訓練、防災訓練に関する情報を発信した。 2 キャンペーン・巡回パトロール等の啓発活動 区内で苦情・相談があった地域の付近の巡回パトロールを実施した。また、犬のフンの持ち帰りや猫に対する無責任な餌やり防止等に関するチラシの回覧、看板など啓発資材の作成・配布等を実施した。 3 用具等の貸出、補助券の交付等 猫忌避装置の貸出や犬猫用名札の配布、避妊・去勢・マイクロチップ装着の補助券の交付、のら猫対策活動の支援及び周知等を実施した。
実績	キャンペーン、巡回パトロール等の啓発活動の実施 13 回
総括	新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、イベント等で広く区民に対して啓発を実施した。特に3年ぶりに開催された区民まつりでは、広く区民に啓発を実施した。